

ヨーグルトとオリーブオイルによる 快便へのアプローチ

介護老人保健施設 セージュ新ことに

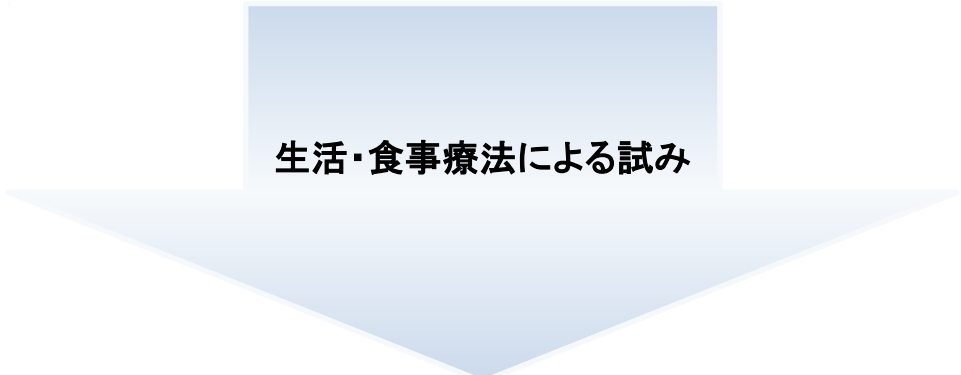
○宮野恵子、原由加李、大西敏子、
安東圭子、加納英雄

I. はじめに

○常習便秘で悩んでいる人の多くは直腸便秘である。安易な薬の使用は便秘が常習化する。

そこで・・・

A氏80代女性、オリーブオイル大匙1+納豆提供。



生活・食事療法による試み

開始時Bss②が3週目にBss④に、硬便改善傾向

Ⅱ・方法①



Ⅱ. 方法②

○対象: 下剤服用も4・5日排便がなく、
追加の便処置を要し及び硬便で排便
困難者10名

○期間: H28年2月1日～年4月30日

Ⅲ. 結果

○オリーブオイル群

検証前便処置7～8回から検証中3～4回と減少

便失禁は見られず

○オリーブヨーグルト群

3月下剤減量にて4月、8人中5人便処置回数増加

検証前Bss③が検証中、⑤及び⑥軟便傾向

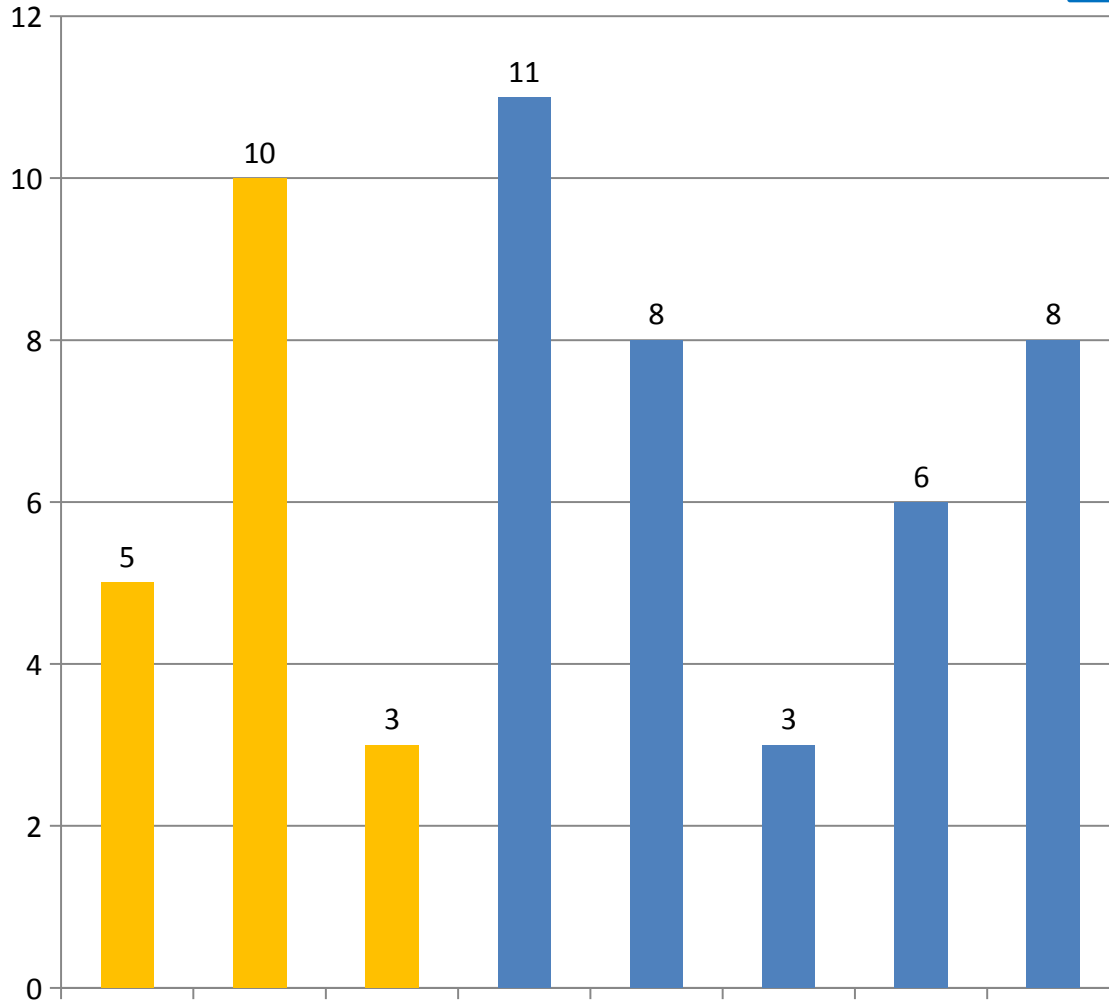
便失禁減少、便臭緩和

IV. 考察

○オリブオイル群の両氏はオレ
イン酸が大腸に作用し腸管刺
激され、腸蠕動運動促進**快便**

オリーブヨーグルト群

4月の便処置回数 N=8



4月に便処置回数が減少した3名

便処置回数が増加した5名

1)や向精神病薬服用者の薬剤性便秘には、効果が表
にくい

2)傾向はオリーブのオレイン酸効果と、ヨーグルトで腸
環境正常化したため

3)緩和は、ヨーグルトで善玉菌補給することで腸内細菌
が整えられた為

V. おわりに

- 3日間の排便なければ下剤を服用する前に、
排便習慣・生活習慣の情報収集とフィジカル
アセスメントが必要
- 対象に合った下剤や量の検討
- チームケアも必要不可欠

今後はプレバイオティクスも併用し、できるだけ下剤に頼らず排便コントロールを試みたい。

がん治療に腸内善玉菌

手術後の感染性合併症を防止



シンバイオティクスを取り入れた病院内の一例



野本 謙二
特別研究員

科学的に解明

【札幌】がん患者の手術後、腸内細菌叢が乱れ、感染性合併症の原因となる。腸内細菌叢を整えることで、感染性合併症の発生を抑制できることが、北海道立総合研究機構の野本謙二特別研究員らの研究で明らかになった。

シンバイオティクスで効果

腸内細菌叢を整えることで、手術後の感染性合併症の発生を抑制できることが、北海道立総合研究機構の野本謙二特別研究員らの研究で明らかになった。シンバイオティクスは、腸内細菌叢を整えることで、感染性合併症の発生を抑制できる。手術後の感染性合併症の発生を抑制するため、シンバイオティクスは、手術後の感染性合併症の発生を抑制する効果がある。

4、5種類の菌は使った。シンバイオティクスは、腸内細菌叢を整えることで、感染性合併症の発生を抑制する効果がある。手術後の感染性合併症の発生を抑制するため、シンバイオティクスは、手術後の感染性合併症の発生を抑制する効果がある。



善玉菌(乳酸菌)と抗生物質と一緒に摂取する

腸内で善玉菌が増える

【札幌】がん患者の手術後、腸内細菌叢が乱れ、感染性合併症の原因となる。腸内細菌叢を整えることで、感染性合併症の発生を抑制できることが、北海道立総合研究機構の野本謙二特別研究員らの研究で明らかになった。